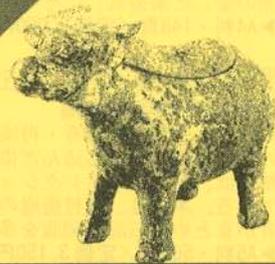


逸翁美術館 編
福岡市美術館



茶の湯交遊録 小林一三と 松永安左工門

逸翁と耳庵の名品コレクション

2013年
10月刊行



▼A4判・一五二頁(カラー一二〇頁)

定価一、八九〇円(税込)

ISBN978-4-7842-1726-7



電力事業再編を行い、戦後日本のインフラを築いた耳庵・松永安左工門(1875-1891)。私鉄経営モデルの原型を独自に作り上げ、宝塚歌劇の創始者としても知られる逸翁・小林一三(1873-1957)。慶應義塾の福澤門下生として出会った二人は、終生の友であり、同時に、戦前から戦後にかけて活躍した大茶人であった。侘びを極めようとした耳庵と、ハイカラで軽やかな逸翁。対照的な二人の茶の湯の世界を、逸翁美術館と福岡市美術館の、それぞれのコレクションの名品でたどる。

二〇一三〜一四年に両館で行われる同名展の展覧会図録。



【図版】
上右：秋草時絵螺鈿聖餅箱(A)
中右：牛形皿(B)
中左：花籠図(B)
上左：五彩魚藻文壺(B)
中左：佐竹本三十六歌仙切
藤原高光(A)
(A)逸翁美術館蔵
(B)福岡市美術館蔵

【内容目次】

総論 小林一三と松永安左工門
〜二人の交遊録〜

第一章 小林一三の眼

第二章 松永安左工門の志

第三章 耳庵の侘、逸翁の雅俗

第四章 逸翁と耳庵 美の交流

第五章 耳庵、逸翁を送る — 追善の茶 —

〔論攷〕

一杓の水

松永安左工門の電気事業再編成と茶道
……岩永悦子(福岡市美術館)

雅俗と侘び — 逸翁と耳庵、二人の交友 —
……竹田梨紗(逸翁美術館)

関係年表／出品作品一覧

思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355 tel.075-751-1781 fax.075-752-0723
http://www.shibunkaku.co.jp E-mail:pub@shibunkaku.co.jp

注文票

発行：思文閣出版

(京都 取引コード 3402)

冊数	冊	茶の湯交遊録 小林一三と松永安左工門 本体1,800円(税別) ISBN978-4-7842-1726-7	
お名前	tel		QRコード
	e-mail		
ご住所	〒		
送本方法	□書店経由(このちらしを書店にお渡し下さい)		
	□代引(書籍代+送料を現品と引き替えにお支払い)		

本書HPのQRコード

書店番線印

復活！不味公大圓祭

逸翁美術館編 小林一三が愛した大名茶人・松平不味特別展覧会の展示図録。逸翁が最も敬愛した、江戸時代を代表する大名茶人の一人、松平不味。昭和29年に飯急百貨店で開催された「不味公大圓祭」では、不味公の好みものや、縁の作品などが展示された。当時出品された作品を中心に、不味遺愛の名品である「豊州蔵帳」取巻の名品、及び逸翁が収集した不味作品をカラーで収録。

▶A4判・84頁／定価1,050円

ISBN978-4-7842-1685-7

*茶の湯文化と小林一三

逸翁美術館編 特別展覧会の展示図録。明治・大正・昭和の実業界で活躍し、またその一方「近代数寄者」として確かな審美眼で膨大なコレクションを収集した小林一三。本書では、小林一三（逸翁）の世界を5つのテーマ「茶道との出会い」「逸翁の茶懐石」「逸翁と茶友」「逸翁の茶道観」「逸翁の愛した茶道具」にそってオールカラーで紹介。

▶A4判・148頁／定価2,000円

ISBN978-4-7842-1485-3

野村得庵の文化遺産

野村美術館学芸部編 野村グループの創始者・得庵野村徳七（明治11年～昭和20年）は、茶の湯・能楽にも打ち込んだ偉大な数寄者であった。得庵の文化遺産の精華は、三千点のコレクションを所蔵する野村美術館などに伝えられている。本書は、野村得庵の文化活動に焦点を当て、各分野の第一人者がまとめた伝記。図版を多数掲載し、新たな得庵像を提示する。

▶A5判・506頁／定価3,150円

ISBN978-4-7842-1701-4

講座 日本茶の湯全史 全3巻

茶の湯文化学会の創立20周年記念出版 本講座は、日本文化史の中に位置づけられた茶の湯の展開を、茶の湯文化学会が総力をあげて俯瞰する。最新の研究成果をふまえ茶の湯を通覧する、まったく新しい概説書。【編集委員会】代表：熊倉功夫／影山純夫／竹内順一／田中秀隆／谷端昭夫／中村修也／中村利則／美濃部仁【構成】第1巻 中世・第2巻 近世【未刊】・第3巻 近代

▶46判・各320頁／定価各2,625円

近代の「美術」と茶の湯 言葉と人とモノ

依田徹著 明治維新で価値を落とした茶道具は、どのようにして美術作品として再評価されるようになったのか？千利休と岡倉天心に注目し、近代美術史の視点から、明治以降の茶道具の評価を捉え直す。美術作品と茶道具の境界線を問う、革新の一書。

▶A5判・332頁／定価6,720円

ISBN978-4-7842-1693-2

京都 伝統工芸の近代

並木誠士・清水愛子・青木美保子・山田由希代編 京都における、他の地域とは異なる側面を有する「近代」にあって、美術・工芸がどのような変容を遂げて現代にいたっているのか。「海外との交流」「伝統と革新」「工芸と絵画」「伝統工芸の場」の視点から、様々なトピックスや人物にまつわるエピソードを取り上げ概観する。各節には年表や関連図版を付し、視覚的にわかりやすく解説。

▶A5判・300頁／定価2,625円

ISBN978-4-7842-1641-3

*絵巻 大江山酒呑童子・芦引絵の世界

逸翁美術館編 特別展覧会の展示図録。館所蔵「大江山絵詞」（重文）とサントリー美術館所蔵「酒伝童子絵」をそれぞれ全巻カラー掲載し、酒呑童子絵巻の二大系統を対比させる。お伽草子として広く読まれるようになっていった鬼退治の物語とともに、軍記物の絵巻・館所蔵「芦引絵」（重文）なども収録。逸翁小林一三の絵巻コレクションを一挙公開。

▶A4判・96頁／定価1,050円

ISBN978-4-7842-1591-1

与謝野晶子と小林一三

逸翁美術館編 特別展覧会の展示図録。数寄者としても知られる実業家・小林一三は、文化の大庇護者でもあった。与謝野晶子もまた、小林一三が支援した作家である。晶子が一三に贈った「源氏物語礼讃歌」短冊全54枚（カラー）、これを詠むきっかけになった上田秋成筆「源氏物語短冊貼交屏風」（カラー）など、手紙や、交流を物語る資料116点を収録。

▶A4判・94頁／定価1,050円

ISBN978-4-7842-1567-6

茶会記をひもとく—逸翁と茶会

逸翁美術館編 特別展覧会の展示図録。逸翁（小林一三）は、三井銀行を退社し、裏面有馬電気鉄道（後の阪急電鉄）を起業した40代前半頃、茶道の師となる表千家の生形賞一宗匠と出会い、本格的に茶人としての道を歩み始めることになる。茶の湯との出会いや、近代数寄者としての歩みを、残された茶会記をひもとくしながらオールカラーで明らかにしていく。

▶A4判・92頁／定価1,050円

ISBN978-4-7842-1626-0

近代数寄者のネットワーク

齋藤康彦著 茶の湯を愛した実業家たち 高橋謙雄、根津嘉一郎、小林一三—近代実業家は明治から昭和初期にかけて互いに争い、経済の発展に貢献した。一方で数寄者として茶会において何度も同席し、財閥の枠を超えた交流が繰り返られていた。本書は、近代実業家と茶の湯に関わるエピソード紹介ではなく、『茶会記』のデータ分析を通して政官財を横断するネットワークを描く。

▶A5判・308頁／定価4,200円

ISBN978-4-7842-1603-1

近代茶道の歴史社会学

田中秀隆著 「伝統文化とは近代に自己変革に成功した文化である」との近代茶道史テーマにもとづき、近代国家の文化的アイデンティティの生成構造面から、茶道が日本の「伝統文化」として認知されるようになった過程を考察。【内容】第一部 近代茶道の三つの転換期／第二部 伝統文化の解読者たち／第三部 茶道への理論的アプローチ

▶A5判・454頁／定価6,825円

ISBN978-4-7842-1377-1

*茶道と恋の関係史

岩井茂樹著 「恋は茶道の精神に反する」とされた一谷鶴潤一郎の随筆にある興味深い一節をきっかけに、恋歌と茶道の関係を茶書や茶会記に探る。茶会の掛物のほか、茶道具の銘に隠された「恋」を紹介し、なぜ恋歌が問題となり、また使われることもあったのかを明らかにする。

▶A5判・232頁／定価3,990円

ISBN4-7842-1313-9

近代日本における書への眼差し

高橋利郎著 日本書道史形成の軌跡 毛筆で肉筆の文字資料が、近代に「書」として位置付けられていく過程を、書道史に関する出版、宝物調査や展覧会の列品、また文化財関連の法令から探り、近代における書道史形成の軌跡をたどる。さらに、近代数寄者が私的に書跡を鑑賞する場について考察し、彼らを取り巻く文化環境を総合的に理解し、書跡へのまなざしの影響を論じる。

▶A5判・304頁／定価5,040円

ISBN978-4-7842-1595-9

源氏物語 遊興の世界

逸翁美術館・池田文庫編 逸翁美術館と池田文庫とで開催された特別展図録。描かれた『源氏物語』を中心に、雅やかな世界を現代に蘇らせる。特に物語に描かれた「奏楽」「舞楽」「暮」など「遊興」に注目し、屏風や画帖などに鮮やかに再現された「遊興」の世界をたどる。また「幻の写本 大淵本源氏物語」や、宝塚歌劇で演じられた『源氏物語』も紹介する。

▶A4判・98頁／定価1,050円

ISBN978-4-7842-1655-0

没後220年 蕪村

逸翁美術館・柿衛文庫編 南画・俳諧、さらに俳画の大成者として輝かしい足跡を残した与謝蕪村（1716-83）の没後220年を記念し、逸翁美術館と柿衛文庫が共同で編集。南画・俳画・嫁入手・扇面・草稿・短冊・俳諧・書簡など、新出作品もふくめ全176点を解説を付してカラーで収録。書簡については巻末に翻刻・解説を併載。

▶A4判・210頁／定価2,310円

ISBN4-7842-1162-4

与謝野晶子の「源氏物語礼讃歌」

伊井春樹著 小林一三による与謝野家への物心両面での庇護下、「源氏物語礼讃歌」が詠まれた背景、いつ秋成の短冊屏風を目にしたのか、さらには晶子自身においても、代表作としての認識がどのように醸成されていったのか、逸翁美術館特別展覧会のテーマをより深く追求めた一書。

▶46判・226頁／定価1,470円

ISBN978-4-7842-1568-3

インタビュー・エッセイや新刊情報を掲載した広報誌『鴨東通信』を年4回無料でお送りしています。電話・fax・Eメールでお申し込み下さい。 ※印の書籍は外函・カバーに汚れ・傷みがございます。